

工學博士 物部長穗氏受賞

帝國學士院本年度の恩賜賞授賞者の一人である内務技師物部長穗氏は我が土木學會に於ける既に餘りに知名の若き碩學である。其論文は「構造物の震動に關する研究」である、氏の所感として報ぜらるゝ所次の如し。
 「土木課では河川改修の仕事の本業として居ますので充分の勉強も出來ず公務の餘暇土曜日曜を利用してやつてみました、丁度大正六年佐賀關に出來た久原鑛業の東洋一大煙突の震動につき研究した結果を見るに、高さに應じた規則的な數字が現はれてゐるのを知りましたので、みんな構造物をも數學的な數字が與へられはしまいか考へ、これがヒントとなりコツコツと初めました、丁度油が乗つた處十二年の大地震にあひ、從來の耐震法が全然間違つてゐた事を知つたのです、高い八階等の建築物が一番低いところよりも四階位の所がひびくやられてゐるのはその結果を判明した、力學上の解釋を與へたわけです」
 氏は明治四十四年帝大土木科卒業後内務省に入り當年三十八歳、音樂、文藝、詩歌等に多趣味の人である。

隅田川口の改修

東京市では東京灣築港計畫の前提として千九百萬圓の巨費を投じて、十四年度から二十年度までの繼續事業として、隅田川口の大改良工事を施すことになり、近く市會に提案する筈である。これは震災直後の水陸聯絡のため三百間の棧橋を相對しお臺場から洲崎沖合まで延長千四百四十間の大防波堤を築き、川口は深さ十二尺乃至二十尺、或ひは二十五尺を浚渫し、その土砂で洲崎南方に約百萬坪の埋地をなすもので、これにより從來川口に六百噸級の汽船しか入港しなかつたのが、三千噸級の船が自由に出入することとなり、従つて内國航路の船は全部横濱を素通りにして直接

東京に荷揚げすることが出来る。

箱根舊東海道の修理工事

箱根湯本から元箱根村に至る二十町の舊東海道の縣道ではあるが、震災後軍隊の屯營中僅に一回手入を加へたのみで、其の後殆ど荒廢のまゝなので、箱根保勝會の斡旋で縣營工事を行ふ事となり、豫算十萬餘圓を投じて目下工事中であるが、沿道の名所古蹟中、初花の瀧を始め、此の系統の上下の瀧五ヶ所が全然震災のため破壊され、その他五郎の手投石、盛勝五郎の小屋掛石、弘法大師の疣水石等の所謂五名石は全部無事である、其他畑宿の石垣、飛龍瀧も甘酒茶屋、櫻の木茶屋サイカチ坂女轉坂其他も無事なので六月の完成と共に再び世に出られるこの事である。

受寄贈圖書雜誌

(大正十四年三月中旬より四月上旬迄の分)

- ☒小住家十種(第一編)文化住宅研究会(府下野方町下沼袋一五八〇)
- ☒名古屋工業會誌(四月號)共會(丸ビル三八三立正社内)
- ☒工政(四月號)共會(麴町區大手町一)
- ☒工人(四月號)工人俱樂部(丸ノ内仲通り六號)
- ☒工業雜誌(四月號)共社(京橋區南鍋町一ノ八)
- ☒移動砂利採掘機説明一部三泉工業社(丸ノ内仲通り十一號ノ一)
- ☒鐵道協會々報(三月號)共會(麴町區有樂町ノ一一)

寫眞ノ部

- ☒臺灣公共埤圳工事寫眞及圖五枚(嘉南大圳組合)
- ☒釧路築港工事寫眞及圖五枚(同事務所)
- ☒釧路築港要覽(同事務所)
- ☒與瀨隧道災害復舊工事寫眞及圖十四枚(保線課)
- ☒復興局橋梁工事寫眞及圖八枚(橋梁課)
- ☒信越電力株式會社工事寫眞及圖十八枚(同社)
- ☒釧路港全景寫眞一枚(廣井勇氏)
- ☒橋梁寫眞及圖三枚(廣井勇氏)

——☒其他の應募寫眞は略す☒——